

令和7年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」

大阪市立姫里小学校

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【安全・安心な教育の推進】**

令和5年度、小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、3年生が80.0%、4年生が84.1%、5年生が73.9%、6年生が79.5%と、高学年で低い数値となっている。

令和5年度、小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、3年生が76.0%、4年生が75.3%、5年生が60.8%、6年生が73.5%と、学年により大きな差がある。

令和5年度の小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は76.2%にとどまっており、さらなる意識の変革が必要である。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和5年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較すると、4年生が+0.05、5年生が+0.16、6年生が+0.02であった。今年度も昨年度に引き続き国語科を研究教科とし、指導力の向上に努めていく。

小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、3年生が68.0%、4年生が71.0%、5年生が58.7%、6年生が66.3%と高学年ほど低い数値となっている。

【学びを支える教育環境の充実】

令和5年度、授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数はほぼなく、7割程度にとどまっている。心の天気の入力や授業での活用を、教員から意識づけていく必要がある。

令和5年度、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない、及び、1年間の時間外勤務時間が360時間を超えない)を満たす教職員の割合は68.8%であった。時間外勤務時間を減らそうという意識は高くなってきている。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 67%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 70%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 67%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 82%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。⇒ **75.4%** **未達成**
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。⇒ **73%** **未達成**

- ◇ いじめ防止について啓発する日を年3回設けて、児童一人ひとりが改めて日々の行動について振り返る機会を設けた。経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、昨年度73.4%、今年度77.7%で、目標の78%にはわずかに届かなかったが、目標をほぼ達成することができた。今後もいじめの早期発見・解消に努めるとともに、未然防止を図るようにしていく。

- ◇ 「心の天気」を活用したり、児童の様子を観察したりすることで、児童の心の状態を把握するようになってきた。児童からの相談や児童同士のトラブルにはすぐに対応をし、解決するようにして、深刻ないじめに発展しないように努めた。いじめ事案については、毎月の生活指導連絡会で報告し、教職員全体で共通理解を図った。今後も、日頃から、児童の良いところを褒めるように努め、自己肯定感を高められるようにしていく。

- ◇ 児童集会やひめっ子まつりなど、異学年で交流する機会を多く設けたり、学級においてペアトーク、グループ交流、係活動を行ったりすることを通して、児童同士が協力して活動することができた。今後もゲーム集会やひめっ子班活動などを通して異学年で関わったり、学級で児童が主体的に協力し合えたりできる場を意識的に設定していく。また、自分の考えを伝え、他者の意見を尊重する態度の育成を図っていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。
⇒ **6年-0.03ポイント、5年+0.13ポイント、4年+0.13ポイント** **未達成**
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を67%以上にする。⇒ **64.2%** **未達成**

- ◇ 本年度は、「書く力」と「語彙力」の向上を重点目標として、国語科を中心に指導の充実を図った。自分の考えを書き、その後ペアや全体で交流する学習過程を取り入れることで、自分の意見に自信をもって発表できる児童が増えた。今後は、ICT活用や読書週間などの取組を継続するとともに、掲示物による視覚的な振り返りの充実や、交流方法の工夫・体系化を図っていく。また、書く力の育成は継続的な取組が重要であるため、長期的な視点で授業改善を進め、児童が「できる・わかる」を実感できる学習環境の充実に努めていく。

- ◇ 体力向上週間を年間3回行い、がんばりカードを作成して、児童が意欲的に取り組みに参加できるようにした。なわとび週間では、高学年の児童が跳び方を紹介したことで、新しい技に挑戦しようとする児童が増えた。今後は、運動が苦手な児童も楽しく取り組める手立てを考えたり、体力向上週間でない期間も運動する児童が増えるような声掛けを行っていく。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕⇒ **75.2%** **達成**
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を70%以上にする。⇒ **87.1%** **達成**
- ◇ 心の天気、らっこたん、デジタルドリル等で学習者用端末を活用したことで、児童の8割以上が端末を活用した日数が目標を上回ることができた。また、タイピング大会を実施したことで、タイピングに意欲的に取り組む児童が増えた。今後も、学習者用端末を毎日利用する機会を設けるとともに、タイピングスキルの向上を図っていく。
- ◇ 長期休業前後に5時間授業の日を設定したり、二学期制を導入したりしたことで、業務に取り組める時間を確保でき、児童一人ひとりをじっくりと評価することにつながった。また、特別授業や社会見学、5年生林間学習の取り組みなど、学習活動を充実させることができた。会議の日程を偏りなく設定したことで、計画的に一週間の業務に取り組むことができ、時間外勤務時間の削減につながった。次年度も二学期制や長期休業前後の5時間授業を実施し、会議・研修の設定を工夫して、時間外勤務の削減に努め、教員がゆとりをもって業務に当たれるよう進めていく。

(様式2)

大阪市立姫里小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ○ いじめを「しない・させない・見逃さない」の目標のもと、日々の指導を通じて一人一人の児童が安心して生活できる教育環境づくりに努める。 ○ 「いじめについて考える日」を年3回実施し、児童朝会や学年、学級で考える機会を設定する。 ○ いじめのアンケートを毎学期ごとに実施し、認知したいじめについて聞き取り、解消に向けて適切に対応する。	B
指標 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を78%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○ 集会活動やひめっ子班活動などでのたてわり班活動を工夫することや学校行事、学級活動において、児童が協力して活動に取り組む機会を様々な場面で設ける。	A
指標 様々な活動を通して、仲間を大切に、ともに高めあえる集団を育成する。学校アンケート「友だちを大切にできている」の項目で、肯定的回答の割合を97%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ○ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は75.4%であり、目標よりも9.6%下回る結果となった。 ○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は73%であり、目標よりも4%下回る結果となった。	

【取り組み内容】について

取組内容①

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は 77.7%であり、0.3% 下回る結果となった。
- 「心の天気」を活用したり、児童の様子を観察したりすることで、児童の心の状態を把握するようにしてきた。児童からの相談や児童同士のトラブルにはすぐに対応をし、解決するようにして、深刻ないじめに発展しないように努めた。いじめ事案については、毎月の生活指導連絡会で報告し、教職員全体で共通理解することができるように努めた。
- 「いじめについて考える日」を年3回実施し、児童一人ひとりが改めて日々の行動について振り返る機会を設けることができた。
- いじめアンケートは、計画通りに実施できており、いじめられたと回答した児童には聞き取りを行い、解決できるよう取り組んだ。

取組内容②

- 学校アンケート「友だちを大切にできている」の項目で、肯定的回答の割合が 98.1% で目標を達成することができている。
- たてわり班で活動する児童集会やひめっ子まつりなど、異学年で交流する機会がこれまでにたくさんあった。ペア、班どちらとも活動することで、異学年で関わる機会をより多く設けることができ、児童どうしが協力して活動することができた。
- 学級においても、ペアトークやグループ交流、係活動を通して、協力して活動する機会を様々な場面で設け、取り組むことができた。

次年度への改善点

取組内容①

- 日頃から、児童の良いところを褒めるように努め、自己肯定感を高められるようにしていく。
- 今後もアンケートを実施し、いじめの早期発見・解消に努めるとともに、未然防止を図る。

取組内容②

- 次年度も引き続き、ゲーム集会やひめっ子班活動を通して異学年で関わったり、学級で児童が主体的に協力し合えたりできる場を意識的に設定していく。
- 授業では、これまで通り、ペアトークやグループワークを毎日行い、自分の考えを伝え、他者の意見を尊重する態度の育成を図るようにする。

大阪市立姫里小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 67%以上にする。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○ 自分の考えをもち、表現できるようにするために、読解力・語彙力を向上させて、書く力の育成につなげる。さらに、文章で表現したものを活用して積極的に他者と交流する場を設定する。</p> <p>○ 国語科の指導方法の研究を進め、児童が「できる・わかる」を実感できるよう、指導力の向上を図る。</p> <p>○ 前期・後期各1回以上、読書週間を実施する。</p> <p>指標 学力経年調査の児童アンケートで「国語の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答がいずれの学年も 80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>○ 年3回、「体力向上週間」を定める。1学期は体づくり運動(外遊び)、2学期はかけ足、3学期はなわとびを中心に、体育科の時間や休憩時間に取り組む。その際、児童が楽しんで取り組むことができるような「がんばりカード」を作成したり、運動委員会からなわとびの跳び方の紹介をしたりして進んで運動に取り組める工夫をする。</p> <p>指標 児童が楽しんで取り組みができるように「がんばりカード」を活用したり運動委員会でなわとびの跳び方を紹介したりして、年3回の「体力向上週間」を実施する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>○ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比は、6年-0.04、5年+0.13、4年+0.13で、目標を達成できない学年があった。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は 64.2%で、目標を 1.8%下回る結果となった。</p>	

【取り組み内容】について

取組内容①

○ 本年度は、「書く力」と「語彙力」の向上を重点目標として、国語科を中心に指導の充実を図った。パソコンやワークシートを活用した文章作成、一行日記の継続、単元導入時の国語辞典による意味調べなどに取り組み、基礎的な語彙力の定着と文章構成力の向上を図った。その結果、自分の考えを書き、その後ペアや全体で交流する学習過程を取り入れることで、自分の意見に自信をもって発表できる児童が増えた。研究授業や教材研究を通して、学年全体で指導力向上にも努めることができた。

一方で、学力経年調査では一部学年において授業理解に関する肯定的回答が目標を下回る結果となった。書く力は徐々に伸びているものの、児童が十分に「わかる」と実感できる授業づくりには、さらなる工夫が必要であることが明らかになった。

○ 学力経年調査の児童アンケート「国語の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答は、6年 90.6%、5年 81.7%、4年 80.6%、3年 77.1%で、いずれの学年も 80%以上にするという目標を達成できなかった。

取組内容②

○ 5月に1回、11月に1回、1月に1回と体力向上週間を設け、体力づくりに取り組んできた。それぞれの週間でがんばりカードを作成し、児童が意欲的に取り組みに参加できるようにしてきた。カードを作ったことで、積極的に運動場へ出て体を動かす児童が多くなった。

○ 11月に実施したなわとび週間では、高学年の児童が跳び方を紹介したことで、新しい技に挑戦しようとする児童も増えた。

次年度への改善点

取組内容①

○ ICT活用や読書週間などの取組を継続するとともに、掲示物による視覚的な振り返りの充実や、交流方法の工夫・体系化を図る。

○ 書く力の育成は継続的な取組が重要であるため、長期的な視点で授業改善を進め、児童が「できる・わかる」を実感できる学習環境の充実に努めていく。

取組内容②

○ 運動が苦手な児童も楽しく取り組めるように、引き続き取り組んでいく。

○ 体力向上週間でない期間でも、継続した声掛けを行っていく。

大阪市立姫里小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕</p> <p>○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を82%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>○ 毎日1回以上、デジタルドリル等を活用し、児童の習得状況を迅速かつ的確に把握して、一人一人に効果的な支援を行う。</p> <p>○ タイピングスキルの向上に取り組む(タイピング大会の年2回実施)。</p>	C
<p>指標</p> <p>学校アンケート「学習者用端末を使っている」に対する肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○ 業務量が多い長期休業前後の授業時間を調整し、業務に取り組める時間を確保する。</p> <p>○ 二学期制の導入に取り組む。</p> <p>○ 業務時間や休憩時間を確保できる会議の設定や業務の分担を工夫する。</p>	A
<p>指標</p> <p>毎月の時間外勤務時間が45時間以下の教員の割合を82%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について</p> <p>○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75.2%以上で、目標の75%を上回ることができた。</p> <p>○ 時間外勤務時間が45時間以下の教員の割合は87.1%で、目標の82%を上回っており、年度目標を達成することができた。</p> <p>【取り組み内容】について</p> <p>取組内容①</p> <p>○ 心の天気、らっこたん、デジタルドリル等で学習者用端末を活用したことで、児童の8割以上が端末を活用した日数が、授業日の75.2%と目標を上回ることができた。</p> <p>○ タイピング大会を実施したことで、タイピングに意欲的に取り組む児童が増えた。</p> <p>○ 学校アンケート「学習者用端末を使っている」に対する肯定的な回答をする児童の割</p>

合が、75.1%と目標を下回った。指標の割合が達成できない要因として、アンケートの文言に「毎日、学習で」とあるので、学習での意味のとらえ方に違いが生じ、肯定的な割合が増えなかったと考える。

取組内容②

- 長期休業前後に5時間授業の日を設定したことで、業務に取り組める時間を確保することができた。
- 二学期制の導入により、7月・12月の通知表作成がなくなり、業務負担が減ったため、ゆとりある働き方につながった。また、特別授業や社会見学、5年生林間学習の取り組みなど、学習活動を充実させることができた。さらに、学習内容を幅広く見ることができたことで、児童一人ひとりをじっくりと評価することができた。
- 会議の日程が偏りなく設定されており、計画的に一週間の業務に取り組むことができた。
- 会議や研修のため、休憩時間の確保が困難な場面もあった。
- 時間外勤務時間が45時間以下の教員の割合は毎月85%を上回っており、指標を達成することができた。

次年度への改善点

取組内容①

- 児童が学習者用端末を活用した日数については、年度目標を達成したものの、9月より減少傾向にある。次年度も、心の天気、らっこたん、デジタルドリル等を毎日利用するよう声掛けしていく。
- 今後もらっこたん等で練習を重ね、タイピングスキルの向上を図る。
- 児童アンケートの文言について、学習者用端末を利用している実態を正しく反映するような文言に改善するよう検討する。

取組内容②

- 次年度も二学期制や長期休業前後の5時間授業を実施する。
- 時間外勤務について、可能な範囲で削減に努める。
- できる限り休憩時間を意識して、会議・研修の設定を工夫する。